

# Mission

July  
2018  
vol.6



FUKIAGE WANDER MAP (鹿児島県日置市)

## CONTENTS

巻頭インタビュー この人に聞く! ……2

**黒宮亜希子**さん(吉備国際大学社会科学部准教授)



CLCスタッフのお宝探し ……5

FUKIAGE WANDER MAP (鹿児島県日置市)  
特定非営利活動法人もちもちの木 (広島市中区)



CLCスタッフの視点 ……11

大曾倉ふれんど (長野県駒ヶ根市)  
名取市復興促進イベント (宮城県名取市)



〇〇と私 ……14

CLC 新規事業のご紹介 ……16

ひなたぼっこ・あがらいん便り ……17

書籍コーナー ……18

セミナー開催案内 ……19

事務局の動き ……22

2017年度実績報告・編集後記 ……24



# 地域共生社会と、 近所づきあいをしたことのない 若者たちのいま

Akiko Kuromiya

黒宮 亜希子さん

◎岡山県高梁市  
吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科 准教授

人口減少・少子高齢化で、高齢者のことばかりがクローズアップされる今日、未来を担う若者のことは見落とされがちです。しかも、核家族化で、近所づきあいをしたことのない学生が増えている!? 地域共生社会がうたわれるなか、リアルな若者たちの姿を、吉備国際大学社会科学部准教授の黒宮亜希子さんに伺いました。

この人に  
聞く!



### プロフィール

岡山県岡山市出身、生粋の「おかやまっ子」  
同志社大学大学院文学研究科社会学専攻(博士:社会学)、社会福祉士  
2006年4月より吉備国際大学(岡山県高梁市)に在職、社会調査法や地域福祉を教える。  
現在、岡山県内の中山間地域を中心に、生活支援サービスの可視化に関するフィールド調査に取り組んでいる。

——黒宮先生の専門分野は？

**黒宮亜希子(以下、黒宮)** 私

は大学院で社会学を専攻し、ふれあい・いきいきサロンの調査研究や中山間地域における見守り活動などの社会福祉実践について、社会学の視点で研究しています。この4月から、社会学部経営社会学科に所属が変更されましたが、それまでは学生とフィールドワークを行い、サロン拠点でのヒアリングや、住民対象のワークショップで資源マップづくりのお手伝いなどもしていました。

大学は、学生一人ひとりの能力を最大限に伸ばし、社会に送り出す場です。地域包括ケアや地域共生社会という言葉が飛び交うなか、学生に教えていて、非常に難しいと感じるのが「地域」という感覚です。小さな四角のスマートフォンを見て大半の時間を過ごしているいまの学生に、「住民」という感覚を理解してもらうのが非常に難しいと感じています。

——具体的に？

**黒宮** 私の授業は、講義形式中

心ではなく、グループワークを用いた対話スタイルをとっています。毎回、事例をもとに、どう対応したらよいかを学生と考えます。

たとえば、要支援1の高齢者を在宅生活で支えるために、見守りはどうしたらいいだろうかと話合ったとき。「隣近所の人、その人の家を訪ねて、行き来する機会を増やせばいいんじゃないか」「回覧板をもっていくときに、おしゃべりをして自然に見守る」という意見が出る一方で、「隣の家になんて行ったことがない。近所の人の家に行くという感覚がよくわからない」と言う学生も一定数います。

よく聞くと、子どものときから隣近所の家に入りました経験がなく、また、町内会がなくて回覧板の存在しない地域で育ったことがわかりました。フィールドワークやボランティア活動をとおして、初めて80歳代の方と触れ合い、後期高齢者になるとこんな身体的変化があるんだと理解する学生もいます。テキ

スト上の「後期高齢者」「見守り」「地域住民」という言葉は理解できても、実感が伴わないと「見守りなんて、専門職がすればいいじゃん」と発言しがちです。

もちろん、専門職の存在は必要です。ですが、なぜ専門職だけでなく地域の力が必要なのか。こういうときは、教材のDVDの出番です。映像で実際の取り組みを見て、住民同士で見守る意義を理解してもらいます。「そうか。専門職は月数回は訪問できても、その人を24時間365日見守ることはできないものね」「近所の人なら、夜に電気がついたとか、朝カーテンが開いたとかも気づくよね」と納得します。

ご近所のつながりを体験したことがない若い世代とともに、これからどうやって地域課題を解決し、地域共生社会を築いていくのか。本人たちの理解と実感がすすむまでには、まだまだ力をつけなければならぬのが実情です。

——CLCのDVDを教材にし

てくださっているんですね。

**黒宮** CLCのものをよく活用させていただいています。今日取材に来られるから購入したのではなくて(笑)、以前から教材としてよく使用していました。集合住宅団地や中山間地集落、被災地での支え合い活動などの事例がたくさんあり、冊子にDVDが付いていて、実際の活動を動画で見られるのは大きな魅力です。

——実際の映像を見て事例検討のワークをしていくと、学生



岡山キャンパス



授業に活用いただいているCLCの本&amp;DVD

は腑に落ちていきます。先日も『集合住宅団地の支え合いのすすめ』のDVDを流し、北海道札幌市のみじ台団地で取り組む「黄色いエプロンさん」の見守り活動の様子を見て、こうやって孤立を防いでいるんだねと納得することができました。日本の文化を知らない留学生も、腑に落ちます。映像の力は大きいですね。

——動画で疑似体験ですね。

**黒宮** 地方の大学なので、過疎地出身の学生もいます。授業では自分の出身地について調べるワークを行います。自分が地域の人に育てられてきたことに気づき、自分の就職活動について、真剣に考える学生もいます。「そういうえば、サッカー教室で地元の人に教えてもらったり、地元の人が寄付を募って僕たちをサッカー遠征に行かせてくれた。これは実はすごいことだったんだ」「帰省したとき、耕作放棄地が増えていて気になった」と。地元に戻るか都市に出るかという選択が、自分一人のことではなく、故郷の未来と直結することに気づい

ています。

不登校や勉強に行きづまった経験をして、勉強だけではない評価をされたいと思ったり、地域の役に立ちたいと思っている学生も多くなります。

先日の授業で、ふだんはまったく発言しない男子学生が、こんな話をしてくれました。「日曜日に親に無理やり誘われて、初めて地域清掃に参加した。地区のほとんどの住民が参加していて、自分の名前を覚えてもらえた。自分も、近所の人の顔と名前を知ることができた。疲れたけれど、楽しかった。清掃が終わったあと心地よかった」と。これが彼の「地域デビュー」であり、地域のひととの交わりが、心地よい体験につながっています。彼にとって、教科書上の言葉だった「地域」を実感できる場になったことは間違いありません。

——学生にとっても、地域と交わることはうれしいことなのですね。

**黒宮** 積極的にボランティア活動をしてきた女子学生は、「こ

の前、近所のスーパーに行ったら、『こんにちは』と小学生の女の子にあいさつをされた。

私を知ってくれている人が地域にいること、そして私が信頼できる大人に見えることができることがうれしかった」と言うのです。そして「私、なり

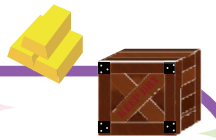
たいものがわかった。親や教師以外の、信頼できる大人になりたい。地域の姉さんになりたいな」と言いました。私はハッとさせられました。地域共生社会というのは、さまざまな人が住む地域に、信頼できる人を増やしていくことだと。その後、彼女は地元で就職をして、いまま地域活動に取り組んでいます。

ちょっと大人になり、心に余裕ができたとき、多くの学生が自分の地元について考える時間

をもちます。見た目はいまだきのおしゃれな学生も、ピュアな感性をもっています。福祉の仕事に就いても、そうでなくとも、「我がこと」として考えるような、地域の一構成員としての自覚をもってほしい。そのためのきっかけや気づきを教育機関として促し、関心を掘り下げのお手伝いをしていきたいと思っています。

(小野寺知子)





# 芸術で地域振興・地域づくりにも挑戦し続けた10年間

FUKIAGE WANDER MAP (鹿児島県日置市)

芸術で地域振興・地域づくりは可能なのか。そんな難題に、果敢に挑戦する人がいる。

その人とは、情熱家を名乗る、博多和宏さん。自身がデザインした奇抜な服に身を包み、金髪の長い髪を束ねるその姿は、一目見たら忘れられないインパクトがある。

博多さんは、鹿児島市内から移住し、2007年夏に日置市吹上の野首地区公民館(旧野首小学校)の敷地内にアトリエを構えた。

2008年に取り組んだのが、野首地区公民館体育館で開催した「体育館で芸術」。博多さんが、仲間のアーティストを誘って企画したグループ展の位置づけだった。これが、のちに10回の開催を重ねる、FUKIAGE WANDER MAPの原点となる。

翌2009年からは、「アーティストの作品を見ながら町内を散策(WANDER)してもいい」単発

ではなく継続的なイベントにしていこうと、「第1回FUKIAGE WANDER MAP」の開催を企画した。

町外・県外から、34組の参加アーティストの声かけで吹上に訪れる人たちに、ゆっくりと作品を見てもらえようなおもてなしをしたい、そう考えた博多さんたち主催者は、カフェの営業を思いつづが、教育施設のために営業許可が下りない。無償での提供なら問題はないが、資金がない。そこで力を発揮したのが、野首地区婦人部の女性たちだった。婦人部が体育館でのお茶のおもてなしを担当し、アーティストと地域を、来場者と地域の橋渡し役となったのだ。婦人部の温かいおもてなしは、吹上を訪れた人が地域の人と言葉を交わすきっかけとなり、また、婦人部の女性たちもこの企画にかかわることで、紡ぎだされるアートやアーティスト自身への興味につながり、以後、交流を深めていく契機となった。

2012年の第4回ワンダーマップでは、現代音頭作家によるボン・ダン入「吹上砂丘音頭」が誕生。芸術祭での踊りが地域を盛り上げ、20年間途絶えていた吹上地区の夏祭りの復活のきっかけとなった。

スローガンは、「ライヒライフ」。漢字では、「来日來吹」と書く。「日置市に来て、吹上に来た」「日置市に来る。吹上に来る」「郷土(吹上)に生きる(ライヒドイツ語で「郷土」、ライフ II 英語で「生きる」の意)の意味を持つ。「人が訪れたくなるような、暮らしたくなるような、魅力的な地域を郷土(地域)に生きる人々が自らの手で創造していきましょー」という願いを込めているのだ。

## ガイドブックで魅力を発信する

ワンダーマップで欠かせないアイテムの一つが、「ガイドブック」だ。毎年、趣向を凝らしたガイドブックのつくり



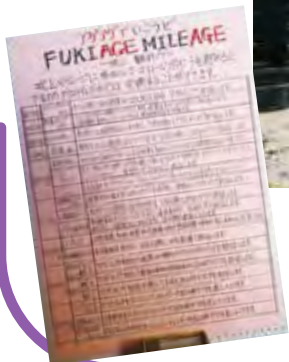
メイン会場となる体育館で、博多和宏さんの作品



メイン会場の入り口にはこんな看板も



屋外のツリーハウスももちろんアーティストによる作品



各会場を訪れてtwitterで報告すると、吹上マイルージが貯まる。貯まったマイルージはクリエイティブサービスと交換できる



吹上浜はウミガメの上陸日本一。ワンダーマップの開催に合わせてウミガメアートコンテストが開催されている(主催吹活会)

妖怪の絵を描くアーティスト。小さなころから頭に浮かんで消えていた妖怪の絵をペン1本で世の中に送り出す



子どもたちに大人気!空気をを使ったアートを魅せる

FUKIAGE WANDER MAPの責任者で、情熱家の博多和宏さん



第10回吹上ワンダーマップのガイドブックは、テーマ「吹上てん」にちなんで、吹上町のさまざまな情報を50音順で紹介する吹上町の百科事典「吹上典」が作成された

には、随所に読み込ませる工夫があり、そして何より、地域の人たちの笑顔があり、地域の魅力がふんだんに掲載されていて、唸らせられる。

ガイドブックづくりが始まったのは2010年の第2回から。当初は、地図をつくるかと考えていたが、吹上の魅力は地図では掲載しきれないと、吹上町の魅力をアーティストが紹介するガイドブックを作成することになった。

コンセプトは、「地域の魅力はこの暮らす人々が創るもの」。第5回(2013年)からは、地域の魅力を紹介するだけでなく、新しい魅力を創造し、掲載をする取り組みを始めるために、アーティストと地域住民と一緒に学び、企画をするかたちになった。さらに、「新しい魅力を創造するためには、地域にもともとある魅力をよく知ることが重要」という気づきも得た。

## アーティスト流・地域への入り方

吹上高校の生徒にアンケートをとったところ、90%の生徒が「町内の商店街の店舗を利用したことがない」と回答した。それに驚いた博多さんは、町内のお店を知ってもらい、魅力を感じてもらおうと目的で「吹上」を企画した。

高校生に、商店街で購入できる衣料品の

みでコーディネートしてもらい、それを撮影する。撮影した写真を、ファッション誌のようにワンダーマップに掲載したのだ。一方では、地元のお店の利用促進や商店街の活性化ともとれるが、その本髄は、アーティストが地域の人と人をつなぐ、という点にあると感ずる。

さらに、「ワンダーマップでもてなしをしてくれる婦人部の女性とは、比較的早く仲良くなれたけれど、男性たちとはなかなか知り合っつきっかけがなかった」と博多さん。なんとなく顔見知り、呼び名や家は知っていても、今さら「お名前を教えてください」とは言いづらい。ワンダーマップを遠巻きに見ている男性たちと、もっと仲良くなりたい。

そこで考えたのが、「野首おじちゃんトランプ」の作成だ。トランプの絵柄を、地区の男性の顔にする。「トランプをつくるから、その写真を撮らせてください」と話しかけ、「数字ではなく名前を入れます。漢字を間違えてはいけなから、教えてください」と聞く。そこから「ミニニケーション」が始まる。

トランプに数字を入れなかった理由は、「数字を入れると、順位をつけてしまうみたいだから」と博多さん。この「おじちゃんトランプ」は好評で、(おじちゃんトランプ)は当然のオケケケ(おじちゃんトランプ)その後、「おばちゃんトランプ」もつくられ

# CLCスタッフのお宝探し

体育館の舞台がライブステージに。  
音楽、演出、一体となった芸術が楽しめる



野首おじちゃんトランプ。はにかんだような笑顔がまたまぶしい



体育館に展示される絵画を中心としたアート。  
手前のウミガメの絵は、なんとコーヒードロップで描かれたのだとか



吹上の風景を描くアーティスト。描かれている河童もまた、  
ワンダーマップに参加するアーティスト



吹上のお店のかんたんコピーを考えたポスター展。  
2016年の企画として実施した



野首地区の船木神社で開催される船漕ぎ祭りでは、模造船が使用され、10開催を記念して、アーティストが制作した模造船が奉納された

## そして10年、 区切りのワンダーマップ

第10回目となる2018年の「ワンダーマップ」は、2月17日(土)から9日間、開催された。野首地区公民館体育館(旧野首小学校体育館)をメイン会場に、旧吹上町内の28か所をサテライト会場として、アーティストたちの作品に触れることができた。

吹上の景色を描く人から、妖怪の絵を描く人、写真、陶芸、オブジェ、多岐にわたる。もちろん、ライブ会場ではミュージシャンや舞台芸術も。とにかく、もりだくさんの9日間なのだ。

作品を鑑賞するだけでなく、その場で制作や実演をするアーティストとの会話も楽しい。新鮮で斬新な切り口、アーティストならではの視点。日常では得がたい感性にビビシと触れられる。なにより、アーティストの皆さんがとても丁寧に、心をこめて対座してくれていることが伝わる。

ワンダーマップには、毎年、多くの小学生も訪れる。今年のライブ会場では、吹上の小学校を卒業した一人の女性がワンダーマップにアーティストとなって帰ってきた。「小学生のころにワンダーマップを訪れた女の子が、上京してアーティストとして歩き出した。彼女には、地元・吹上の舞台で自信をつ

けて帰ってほしい」という思いのもと、ライブパフォーマンスの企画の1つを彼女のまかせたという。「初めてのことでだから、うまくいかないところも当然あると思う。だけど、吹上でやり遂げることが大事。失敗もあるかもしれないけれど、協力してほしい」。博多さんはその関係者に頭を下げてまわったという。

「始めたときに、『10回は続けよう』と思った」と博多さん。2018年の第10回で、芸術祭としてのワンダーマップはいったんの区切りを迎える。「自分たちの作品を見てもらいたい、という思いから始めたワンダーマップが、地域の人たちの協力をいただいて、ここまで続けることができた。地域のために頑張っている、と想っていた時期は苦しさも感じていたが、地域の魅力を発信することで、地域の豊かさを実感することができた。それは、結局は自分自身が豊かに生きることにつながるのだと思う」と話す。

移住者として、アーティストとして、確実に地域に新しい風を呼び起こし、そして人と人とのつながりをつむいできた博多さん。吹上のまちとどう歩んでいくのか、そして吹上から何を発信していくのか。これから注目していきたい。

(宇城絵美)



# 介護事業とコミュニティ支援の融合 ——多世代交流は、新たなセーフティネット

特定非営利活動法人もちもちの木（広島市中区）



活動報告交流会

2018年5月26日（土）夜、広島市内の会議室で開かれた「特定非営利活動法人もちもちの木」主催の活動報告交流会には、約60人の参加があり、会場は熱気で満ちあふれた。もちもちの木が運営する3か所の拠点を中心に活動する地域住民たちが、日ごろの取り組みを生き生きと発表し合う。ランチ会やコーラス・パソコン・ヨガ・健康マージャンの会などをはじめ、若年性認知症当事者の会や認知症カフェ、被爆者による着物のリメイク、子育てママのサロン、多世代で学び合う「多世代寺子屋ネットワーク」まで、世代も内容も多彩な取り組みが20以上報告された。

軽食とアルコールを囲みながら、「つながり活動もいっしょね」とお互いの活動内容に耳を傾け、ヤジを飛ばしたり、拍手喝さいが巻き起こったり。皆さん、とても楽しそう。私（取材者）の隣に座っていた女性が、「去



着物のリメイク作品販売

年よりも発表の数が増えているわ」と教えてくれた。地域包括支援センター職員の間にも、プライベートで参加したという広島市や厚生労働省中国四国厚生局の職員が、感想を述べる場面も。行政や専門職から自分たちの活動を認められて、住民の皆さんが誇りをもつ様子が伝わってくる。

この熱量と一体感——介護事業と

毎月：特定非営利活動法人  
もちもちの木

〒730-0854 広島県広島市中区土橋町 5-35

TEL : 082-294-9346 FAX : 082-294-9328

<http://mochi2.wpblog.jp/>

○土橋のおうち

(グループホーム定員9人、デイサービス、地域交流広場)

○古田のおうち

(グループホーム定員9人、デイサービス、地域交流広場)

○庚午のおうち

(多世代シェアハウス、地域交流広場)





## 「自分たちのつどいの場」

ともに、地域のコミュニティ支援に力を入れてきた「もちもちの木」の実績にほかならない。理事長の竹中庸子さんは、「(理事長の) 私が死んだら終わるまちづくりはしたくない。皆さんの自主性をたいせつにしてください」と話す。

「もちもちの木」は、前理事長の米田NPPOへの思いと大規模施設に感じた限界から、2001年に設立された。目の前にいる高齢者をただ長生きさせるのではなく、幸せに、そして人間らしく暮らしてもらうためにはどうしたらいいか。

一発奮起して同年に開設したが、「土橋のおうち」だ。平和記念公園に隣接する広島市中区土橋町のビジネス旅館を1棟借り切り、1階を高齢者のデイサービス、2・3階を



土橋のおうち外観



土橋のおうち1F

認知症高齢者グループホームとして運営。当初から、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域で誰もが気楽につどえる場が必要だと強く感じ、法人が主催するのではなく当事者が中心となって自分たちのつどいの場を築くように支えてきた。

その後、西区の古田学区社会福祉協議会の会長より「うちの地域の空き倉庫を事業に活用しないか」と声がかかり、2010年にグループホーム・デイサービスと地域交流スペースを設けた「古田のおうち」を開設。さらに、「うちのまちにもつどえる所がほしい」と相談を受け、2014年に「庚午のおうち」を開設。介護保険外の拠点として、多世

## 多世代のまちづくりへ

「古田のおうち」は、開設にあたり、互いに支え合う多世代のまちづくりに向けて、地域への思いのある人と一緒に考えてきた。交流スペースでは、学区社協と民生委員によるサロンが毎月開かれ、そこからひとり暮らしの人が交流しながら手づくりの昼食を食べる「地域食堂」(週2回)が生まれた。近くに集会所がないため、地元の町内会や老人クラブの会合、趣味のサークル活動の場としても利用されるようになった。

古田公民館から紹介された地域団体や、「古田のおうち」の地域活動で知り合った仲間とおしゃべりをするなかで、多世代で地縁を編み直すための、現版寺子屋構想が湧き上がる。そこから、ワークショップ「ふるた多世代寺子屋サポーター養成講座」を企画、公民館のあと押しを得て3日間実施することになった。このとき参加した大学生、社会人、主婦、高齢者など20人との出会いと議論が、現在毎月のように古田地区で交流事業をしかける「多世代寺子屋ネットワーク」の活動を生んだ。

ワークショップでは、「どんな多世代寺子屋にしたいか」を話し合った。参加者は世代も立場も違うため、ギャップを感じる意見がたくさん出されたが、それがお互いの刺激となり、発想を広げることができた。多世代が混ざり合うときにたいせつにしたい「おきて」や、「やってみたいアクションプラン」50企画が決定。その後、参加者は「寺子屋サポーター」として月1回集まり、企画を実施する担い手として活動している。

また、同時期に、公民館と古田中学校がユネスコスクールの校外事業



理事長の竹中庸子さん



「このまちに暮らしたいプロジェクト」の様子。はじける笑顔がまぶしい



として、「このまちに暮らしたいプロジェクト」を始めた。これは、「大人になってもずっと暮らしたい」と思えるまちを実現するために、中学生自身が今できることを考え行動するプロジェクトだ。そして取り組んだのが、公園を丸一日「冒険あそび場」に変える活動だ。「公園は誰のもの?」「規制ばかりで遊べないのはおかしい」という中学生の疑問から、「自由な発想で思いきり遊べる場」「自分の責任で自由に遊ぶ」「冒険あそび場を思い立った。

当日は、親子連れ、孫連れなど100人を超える人たちが集まり、大にぎわい。来園者アンケートでは、このイベントに参加して、公園に対する自分の考え方に何らかの変化を感じたと答えた人が8割あまりもいた。「3世代が一緒に遊べる」「よその子どもや大人と接する時間が持てた」「中学生が地域づくりに参加していて感心した」など、まさに中学生が地域の多世代をつなぎ、居場所をつくる橋渡し役となった。

人口減少・高齢社会を迎え、世代を超えて価値観の違いを受け入れ、認め合う関係こそが新しいセーフティネットになる、と竹中さんは提

唱する。

## 介護事業と

## コミュニティ支援の融合

冒頭の活動報告交流会は、5年前から始めた。活動報告交流会の前には、もちもちの木の通常総会をセットで開き、経営状態を含め、良いことも悪いことも情報を広く公開する方針に切り替えた。また、それまで竹中さんが率先して担ってきたコミュニティ支援とケアの融合について、その意義を全職員で考え、事業所ごとに事業計画をつくり行動するようになった。結果、組織として人材が育ち、離職者が減ったという。

介護事業とコミュニティ支援の融合は、どこでも取り組んでいることではない。しかし、これこそが、見つけた地域課題を解決に結びつけ、真の地域包括ケアの構築につながると信じている。「介護だけでは、命を支えることはできない。他者とのつながりがあったこそ、人は生きることが出来る。つながりを育むには、努力と時間が必要だし、誰もが対等であるべき。活動報告交流会は、それを伝える場になっている」と竹中さんは話す。



法人名の由来は、絵本『モチモチの木』から。臆病な主人公が、大好きなおじいちゃんのために、やさしさや勇気に変える物語。世代を超えて貢献し合うやさしい心が醸成され、新しいセーフティネットとなることを、もちもちの木は目指している。

(小野寺知子)

特製非営利活動法人

**大曾倉ふれんど  
「宅幼老所亀群」**

長野県駒ケ根市



真剣な表情でにんにくの皮むきをする利用者の皆さん



亀群スタッフの皆さん

長野県駒ケ根市の大曾倉地区に地域の方々がつどう場所、<sup>かめむら</sup>「亀群」という宅幼老所がある。山に囲まれた自然豊かな場所にたたずんでおり、地域の高齢者や子どもたちなどさまざまな人が利用している。

1999年、JAの生活部会・大曾倉班の班会で出会った地元の主婦たちが、過疎化が進む自分たちの地域の将来を考えたとき、「いまいる人たちが楽しい活動をしよう」と「ふれんど」というグループを立ち上げた。20歳以上の大曾倉住民を対象に、暮らしについてのアンケートを実施。アンケート結果から、「助け合え、安心して暮らせる地域づくり」「共同生活のための拠点」「生きがいと経済的自立のための加工販売」「景観をたいせつにする」「NPO法人格の取得」といった5点をグループの目標とした。介護保険事業所となるために、2007年にNPO法人「大曾倉ふれんど」を設立、デイサービス機能をもつ宅幼老所亀群が誕生した。「もっと地域に根ざした活動ができれば」という主婦の声から始まった活動は、19年目に突入した。

大曾倉ふれんどは、福祉、地場農産物活用、環境の3つの柱で活動を行っている。福祉では、介護保険事業である通所介護、市の委託を受けた介護予防事業を行っている。地場農産物活用では、手づくりコンニャクやカリンジヤムなど、地元ならではの特産物を加工して販売している。環境は、施設周辺の除草や除雪など、中心メンバーの夫たちの力も借りながら活動が続いている。

取材に伺った日は、亀群に3人の利用者が来られていた。利用者の皆さんは、私たちCLCのスタッフが多数伺ったせいか、少し緊張しているそぶりを見せていたが、ご飯の時間になると、おいしそうに食べている姿を見ることができた。

亀群では、お昼の時間を長く取っており、利用者が自分のペースでご飯が食べられるように配慮がなされている。このような配慮が利用者にとって安心して過ごせる居場所になっているのだと感じた。

毎月第2土曜日は、大曾倉ふれんどのスタッフによって喫茶店が開かれる。5年ほど前から始まったこの活動は、300円の利用料でコーヒーやお茶などの飲みもの、スタッフ手づくりのお菓子などをいただきながら、自由に楽しむ会となっている。地域住民以外でも気軽におしゃべりに来られる集まり処である。

「亀群には、人生の大先輩がたくさん。毎日、いろいろなことを学ばせていただいている」とスタッフの古谷葉子さん。「自分たちの得意な分野で、お互い補い合いながら活動ができる」と同じくスタッフの<sup>しもだいら</sup>下平恵子さんは言う。

話し合いの時間を多く設け、自分たちに合ったやり方で活動が続ける大曾倉ふれんどの女性たちの凛々しい姿から、しなやかな活動の原点を垣間見せていただいた。

(五ノ井茜)

# 支援者へ謝意を伝え、復旧・復興に向けて心一つに。 ——名取市で復興促進イベントが開催

宮城県名取市

東日本大震災の津波で多大な被害を受けた宮城県名取市<sup>ゆりあげ</sup>閑上地区は、復旧・復興に向けた土地区画整理事業が進んでいる。来年5月のまちびらきを控え、2018年5月27日（日）、同地区で「復興促進イベント」が行われた。

市が主催し、これまで支援に携わったボランティア約6,000人や、他自治体の応援職員約200人を招待して開催した。

イベントの目的は、支援者にこれまでの支援に対する感謝を伝えるとともに復興の現状を感じてもらうこと。そして、関係者の心を一つにして復興加速化を図ることだ。



## 「やっぱり閑上はいいところだと感じた」

<sup>ひよりやま</sup>日和山北側の特設会場では、開会セレモニーと復興コンサートが開催された。会場そばでは、「閑上ループバス」が定期運行し、地区内の復興状況の見学も行われた。

隣接した閑上水産加工団地では、「閑上水産加工まつり～復興感謝祭～」が同時開催。閑上の水産加工品の販売会が行われ、多くの人でにぎわった。

開会セレモニーでは、来賓や復旧・復興工事に携わる関係者らがあいさつを行った。名取市震災復興部長からは、閑上地区の今後の復興事業の説明が行われた。東日本大震災の犠牲者を追悼し、震災の記憶と教訓を後世に伝承する「震災メモリアル公園」は、2019年5月の利用開始を予定している。公園に設置するブロックを購入・寄付し、メッセージを書き込める「震災メモリアルブロックプロジェクト」の参加受付も当日行われた。また、名取川堤防沿いに27店舗の商業施設を整備する「かわまち事業」

は、2019年4月のオープンを予定している。津波で被災して解体した「サイクルスポーツセンター」は、災害復旧とあわせて、誘客効果と海辺のまちとしての魅力を高めるために、新たに天然温泉施設も建設予定だ。開業は2020年度を目指している。

セレモニー閉幕後は、復興支援アイドル「みちのく仙台ORI☆姫隊」らの復興コンサートが同会場であり、会場に笑顔を届けた。

名取市の<sup>みたぞの</sup>美田園地区から会場に足を運んだ男性住民は、にこやかにこう語った。「地元で今回のようなイベントが開かれることは、とても良いことだと思う。私は閑上の生まれだけど、長年美田園に住んでいた。（今回来て）やっぱり閑上はいいところだなと改めて思った。景色はいいし、数十年後、数百年後を考えたまちづくりをされている。将来、ここに住みたいという若い世代も増えて、またにぎわってくると思う」。



建設中の閑上中央第二団地の外観



閑上小中学校と慰霊碑の前で市職員による説明があった



水産加工まつりでは、閉上水産加工業組合らにより、販売会が行われた



水産加工まつりの来場者には色鮮やかなカーネーションが配られた



閉上ループバスで区内を巡る参加者たち



日和山頂上。祈りを捧げる来場者

## 閉上の復旧・復興の現状をつぶさに見る

閉上ループバスは、今年4月に開校した閉上小中学校をはじめ、「名取トレイルセンター」建設予定地、閉上中央第一団地（復興公営住宅）、建設中の閉上中央第二団地、閉上公民館建設予定地などを巡回した。

ガイド担当者は、「このあたりまで津波が来るとは皆思っていませんでした。家の2階に取り残された人も多。道路は（避難する）車で渋滞して動けなくなりました。走って高台まで逃げた人もいる。いまは、道路を5メートルまでかさあげしました。7.2メートルの堤防とあわせて二重にまちを守っています」と、当時の被害状況と復興に向かうまちの姿を説明してくれた。

参加者は各施設内部を見学しながら、行政担当者から施設の機能や現在までの経緯などの説明を受けた。

閉上小中学校の校舎は、幅の広い避難階段や備蓄倉庫、ソーラーシステムなど、非常時の防災機能を有する。校庭には、震災前の閉上小の象徴だった「ちびっこ丸」（船をかたどった遊具）や慰霊碑が建設され、さらに閉上の海岸部にあったものと同じ木が植えられるなど、閉上の歴史と文化を学んでもらえるようにつくられている。

公民館の建設予定地では、名取市生涯学習課職員が、構想段階から地区住民と話し合いを重ねてきた過程を説

明してくれた。公民館は震災で全壊し、2016年3月から現在も小塚原地区で仮設事務所として運営されている。これまで5回にわたるワークショップが開かれ、のべ100人の住民が昔の公民館を振り返り、新たな公民館への思いとアイデアを出し合った。同課の職員は、「行政だけの意識ではなく、地区のお子さんから大人の方まで一緒になって（構想を）つくってきた。そういったところを見ていただけたら」とねらいを語った。

富山県からはじめて閉上を訪れたという女性は、区内を見学するなかで被害の状況を肌で感じていた。「間近で見て、現実にあったことだと感じて、気持ちが揺さぶられました。実際に目にしなければわからなかった」。

名取市内の他地区から足を運んだ女性住民は、「少しずつ復興は進んできていると感じたが、（被害のあとを目にして）胸が痛む。同じ名取市内に住んでいても（被害状況や復興の様子に）なかなか気づけない。今回のイベントは、広く知ってもらう機会になったと思う」とイベントの意義を実感していた。

この日の活気と人々の笑顔は、来年のまちびらきを迎えてにぎわう、地区の姿を予感させるものだった。

（田中義則）



# 自治体支援と私

CLCでは、自治体と住民がともに地域支え合いを推進していくための研修や講座を受託しています。講演依頼など、単日での講師派遣もありますが、1年をとおして複数回、同一自治体にお邪魔をして、生活支援体制整備事業に即した地域づくりに関わらせていただくこともあります。

宮城県多賀城市もそうした自治体の一つで、今年度、3年目となる関わりをさせていただいています。関わりが始まったのは、2016年度末。まずは、地域包括支援センターや関係者などに向けた講座を開催しました。そのときにお伝えしていたのは、「来年度、皆さんが中心となって開催するための助走期間にしましょう」といったことでした。

多賀城市には3つの日常生活圏域（各地区に地域包括支援センターを設置し、第2層圏域としてそれぞれ生活支援コーディネーターを配置）と、47の行政区があります。2017年度は、第2層の生活支援コーディネーターに加え、3地区の住民、行政区長・民生委員、市役所の介護福祉課、社会福祉課、地域コミュニティ課、教育委員会の生涯学習課、地域づくりNPO団体など、約24人が1年間をとおした講座の実行委員となりました。8回の実行委員会を開催し、住民向け講座の企画・運営を担いました。

多賀城市は、もともと地域活動も活発な地域でしたが、それでも第1回目の実行委員会では、机を口の字に組んだ会議室で、皆厳しい表情をしていたと記憶しています。「地域での支え合いが大事なことはわかるけれど、新しい仕事（や活動）が増えるのではないか」、そんな思いがあったのかもしれない。

その雰囲気が変わったのは、3回目の実行委員会を迎え

たころでした。ご近所福祉クリエイションの酒井保さんを講師に、まずは実行委員会のメンバーで「地域のお宝探し」を体験してもらおう講座を開催したのです。「ないものを探して新しいサービスをつくり出す」のではなく、ご近所同士の小さな見守りや支え合い、たとえば、「週1回、気の合った友人同士でのお茶飲み」「自分の買いたいものついでにご近所さんを車に乗せて行く」「畑でつくった野菜とおかずの交換」など、日常では見過ごされがちな、自然な支え合いを「地域のお宝」として、それぞれの地域のお宝を出し合っていたいたのです。「これってけっこうおもしろい！」そう感じてもらえた手ごたえを感じた瞬間でした。

実はこのお宝探し講座は、その後の多賀城市の生活支援体制整備事業にも、大きく影響を与えることになりました。

1点目は、すでに第1層の協議体が設置されていた多賀城市ですが、その運営に新しい風を送り込んだことです。実行委員会がワイワイガヤガヤとつどい、楽しく地域について語り合う雰囲気を第1層協議体にも取り入れよう、という影響を与えたのです。

2点目は、このお宝を、3地区から実行委員として参加した住民が取材を行ったことにあります。住民が取材し、生活支援コーディネーターがそれをサポートし、介護福祉課の職員が映像を編集しました。講座の告知チラシも実行委員会のメンバーが作成したのです。「実行委員会でお宝の『意識化・見える化・見せる化』の一連をやりとげたい！」ということがメンバーの自信になったと思います。さらに、ここで見えてきた成果（お宝）をそれぞれの地区

2018.3.14 宮城県多賀城市  
「私たちにもできる！  
地域の支えあい実践塾 “お宝発表会”」  
～～市長からエールが送られた～～



に持ち帰り、関係者や住民が地域の暮らしを考える、「ネットワーク会議」に話題提供するなど、第3層的な協議の場にも成果は波及したのです。

そうした取材をもとに、2018年3月、「私たちにもできる 地域の支えあい実践塾 お宝発表会」が開催されました。入念に行ったりハーサルでは、「壇上に立つ発表会ではなく、客席と同じ高さで話す会場にしよう」という声があがるなど、細かなところまで意見を言い合い、手づくりの発表会ができあがっていったのです。発表会では、市内で見つけた約150のお宝のうち8つのお宝が、約250人の観客の前で発表されました。

8回目の実行委員会では、回を重ねたことで「自分たちが団結するきっかけになった」という声も寄せられましたし、「自分たちが通いやすい小さい地域での講座が必要」という区長からのご意見もいただきました。講座をきっかけに、自分たちのまちのこと、つまり自分事としてとらえていただけるようになったと感じています。

そこにはもちろん、生活支援コーディネーターや行政の担当者の情熱が不可欠です。ある行政職員は、「介護は地域づくり」という強い思いを持ち、関係各課に積極的に声をかけ、実行委員会を陰ながら支えてくれました。「回を重ねるごとに、役所内外の連携が太くなっている」と話してくれています。

こうしたきっかけに関われること、それが中間支援組織の醍醐味であると感じています。次は皆さんのまちでお会いできることを、楽しみにしています。



2018年、CLCに2つの新しい拠点が開業しました。  
いっそうのご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



石巻・蛇田のより所

## まざらいん

開成仮設住宅の供用閉鎖にともない、2018年3月末をもって「石巻・開成のより処 あがらいん」はその役割に幕を下ろしました。

あがらいんのスタッフのこれまでの知識と経験が、地域の皆さまのお役に立てるのではないかと……そう考え、新たに石巻市の委託を受けて、蛇田地区の復興公営住宅等の住民の皆さんのつながりを豊かにすることを応援する事業を開始することとなりました。

### 「まざらいん」はこんな活動をしています！

#### ・移動サロン

「まざらいん」が皆さんの元へ参ります！一緒にお茶飲み・おしゃべりしませんか？

#### ・勉強会の開催

いつまでも地域で元気に暮らすために「支え合いの地域づくり」について、皆さんと学べる機会をつくりたいです！

#### ・情報紙の発行（隔月刊）

情報紙「まざらいん！」で私たちの活動や地域の皆さんのつどい場などをお知らせします。

#### DATA

〒986-0863 宮城県石巻市向陽町5丁目14番地22号  
TEL:0225-24-9910

## CLC京都事務所

念願の西日本の拠点として、CLC京都事務所が開業しました。

おもに西日本を管轄する事務局機能のほか、少人数での勉強会や、CLCの発行する本を読みながら時間を過ごしていただくブックカフェや読書会などを予定しています。イベントのお知らせは、本誌19ページからのセミナー案内をご覧ください。

場所はJR京都線西大路駅から南に徒歩7分。お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください！（なお、出張などで不在となることもありますので、お越しになる前にお電話でのお問い合わせをいただくとスムーズです）



#### DATA

〒601-8328 京都市南区吉祥院九条町1-4  
TEL:075-644-5582 FAX:075-644-5583





カラオケ



カラオケサロン



ひなたぼっこに通信カラオケが入りました。そこで、4月11日(水)にお披露目会としてカラオケサロンを開催し、近隣にお住まいの方を中心に11人で盛り上がり、3曲から5曲を歌うことができ、個々に歌う楽しみはもちろんのこと、みんなで一緒に歌う楽しさもあり、ときには全員での大合唱の声も聞こえてきました。「声を出したら元気が出た」との声も聞かれ、来たときよりも明るい表情で帰られていきました。好評をいただいたので、その後も継続して毎週水曜日の14時から16時の2時間、カラオケサロンを行っています。毎回4〜5人の参加者で盛り上がり、歌だけでなくおしゃべりも楽しまれています。こうしたカラオケサロンの輪をきつかけに、つどいの輪が広がっていくよう、私たちも声をかけていきたいと思えます。

事業内容:制度だけでは支えられない人の一時受け入れ、地域交流、喫茶  
住所:  
〒981-0936 仙台市  
青葉区千代田町1-13  
TEL:022-343-1340 FAX:022-301-8821

国見・千代田のより処

ひなたぼっこ  
便り

ひなたぼっこ利用状況(2018年3月1日~4月30日)

○サロン

4月11日(水)カラオケサロン 8人  
4月18日(水)カラオケサロン 6人  
4月25日(水)カラオケサロン 6人

○ひなたごはん

3月2日(金)カツオの生姜焼き・湯豆腐・切り干し大根 1人  
3月6日(火)ビビンバ・井温玉のせ・コーンスロー・白玉あんみつ 4人  
3月8日(木)赤魚のみりん焼き・煮物・大学芋 1人  
3月13日(火)生姜焼き・春雨サラダ・白玉抹茶アイス添え 3人  
3月15日(木)いなり寿司・シチュー・大学芋 2人  
3月20日(火)鍋(豚肉・水餃子・白菜・豆腐・しめじ) 3人  
3月22日(木)ゆで豚・温野菜・ひじき煮 3人  
4月2日(月)カレイ煮・小松菜のおひたし・三角厚揚げ 2人  
4月25日(水)から揚げ・ポテトサラダ・おひたし 2人

○その他

3月21日(水)ピラティス 2人  
4月16日(月)運営推進委員会  
4月21日(土)明寿会(老人会) 12人

利用状況

3月 相談:11件/緊急受け入れ:9件  
自立準備ホーム:2人 延べ11日  
障害総合支援法に基づくショートステイ  
(緊急以外のSS利用含む):1人 延べ13日  
児童相談所一時保護:2人 延べ30日  
自費利用:4人 延べ59日  
4月 相談:13件/緊急受け入れ:9件  
自立準備ホーム:2人 延べ17日  
障害総合支援法に基づくショートステイ  
(緊急以外のSS利用含む):2人 延べ7日  
児童相談所一時保護:2人 延べ19日  
自費利用:3人 延べ34日



石巻・開成のより処 あがらいんは、2018年3月31日をもって閉鎖いたしました

2018年4月より、石巻市の委託を受け、「石巻・蛇田のより所 まざらいん」をスタート。蛇田地区の復興公営住宅等の住民の皆さんのつながりを豊かにすることを応援しています。

事業内容:地域食堂、お食事サロン、喫茶、お茶っこサロン、惣菜の移動販売・移動サロン、地域交流事業、制度だけでは支えられない人の一時受け入れ  
住所:〒986-0032 石巻市開成1-5 開成公園 グループホーム3号棟・4号棟



最後の地域食堂

3月8日(木)、食をとおして開催して皆さまに親しまれてきた「あがらいんの地域食堂」も今回が最後の開催となりました。

当日は、仮設住宅から復興公営住宅など市内各地へ転居された皆さんも集まってくださり、仮設住宅の同窓会のように。久しぶりの再会に笑顔で抱擁する姿も見られました。

お互いの近況報告から現在のお住まいの話になると、「仮設住宅のときは隣近所の生活音が気になったりしたけれど、気軽に交流ができていて楽しかった、復興公営住宅に移ってからは、建物は立派になったけれど、人とのつきあいが薄くなって心細く感じる」との声も聞かれました。

最後は泣きながらあがらいんの終了を惜しんでくださった方もいて、この活動が皆さまに必要とされていたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

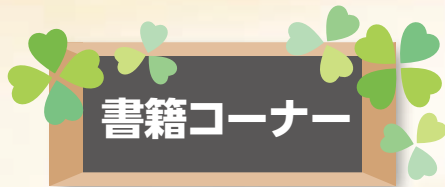
長年のご愛顧ありがとうございました。

利用実績(2018年3月1日~3月31日)

地域食堂(3月1日(木)、8日(木)):計75人  
配食(3月1日(木)、8日(木)):計75食  
AAミーティング(アルコール自助グループ、3月2日(金)):6人  
ボンボンカフェ(NPO法人ベビースマイル石巻、3月7日(水)、14日(水)):計111人

利用状況

3月 制度だけでは支えられない人の一時受け入れ:0人  
通常利用の2人は、ともに満了日の3月20日をもって退出されました。  
(2017年度の延べ利用日数は2人ともに354日)  
Sさん(70歳代男性)  
利用開始日 2016年9月20日~総利用日数は526日  
Iさん(60歳代男性)  
利用開始日 2016年12月14日~総利用日数は426日



## 日本地域福祉学会第32回大会

6月9日(土)～10日(日)、静岡県焼津市の焼津市文化センター・静岡福祉大学で開催された日本地域福祉学会に、今年度も出展をさせていただきました。

2013年の第27回大会から毎年出展をさせていただき、そこで再会や新たな出会いのある、とても意義深い大会となっています。



出展での書籍販売はもちろん、こちらでの皆さまとの会話から、次の出版計画への構想も膨らみます。

また来年、会場でお会いできることを楽しみにしています。(宇城絵美)

👑 会場売り上げ No.1

## 改正介護保険における「新しい地域支援事業」の生活支援コーディネーターと協議体

従来型の介護予防から「地域づくり」へ。2015年4月の介護保険制度の改正で生まれた「新しい地域支援事業」について、よりよく地域で運用するための考え方と取り組みをわかりやすく紹介します。

価格：600円+税  
編：高橋誠一、大坂純、志水田鶴子  
監修：吉田昌司



## 第19回日本認知症ケア学会大会in新潟

6月16日(土)～17日(日)、新潟市中央区の朱鷺メッセで開催された「第19回日本認知症ケア学会大会in新潟」では、パーソンセンタードケアの担当者と、老い支度講座の担当者が販売を担当しました。

「パーソンセンタードケアの講座は、うちの施設で何度か開いていますよ。電話でお話したことありますよね」とお声かけをいただいたり、「老い支度講座、興味あります!千葉県まで来てもらえますか?」とお問い合わせを受けたり(もちろん日本全国どこでも承ります)、新潟の地でお会いできた方々と話がはずみました。



ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。(小野寺麻衣)

👑 会場売り上げ No.1

## 認知症ケアのバリデーション・テクニック

～より深いかかわりを求める家族・介護者のために～

バリデーションは、介護者自身が変わり、介護している相手の個人的世界(その人の現実)に入っていくための手段(道具)を介護者に提供します。介護者も認知症のお年寄りも以前より気持ちが楽になり、喜びを感じるのです。(本文より)

価格：1,800円+税  
著：ピッキー・デクラーク・ルビン  
監訳：稲谷ふみ枝  
訳：飛松美紀



## スタッフおススメの1冊



## 地域福祉から未来へ～社協職員が向き合った 3.11

一宮城からのメッセージ  
価格：952円+税  
監修：原田正樹(日本福祉大学)  
編：「地域福祉から未来へ」編集委員会

東日本大震災直後、宮城県内市町村の社会福祉協議会職員は何を考え、行動してきたのか。震災後の復興支援の使命を背負いながら、「業務」や「被災した家族」の狭間で苦闘しながらも地域福祉の未来への希望を探りつつ、社協職員一人ひとりがその思いを赤裸々に書き綴りました。

地域福祉のありのままの姿、地域住民との関わりそのものを、復興の半ばにして書き残しました。



# TEL:022-727-8730 FAX:022-727-8737

ご注文はCLCまで

送料は一律500円。5,000円以上お買い上げの場合は無料。(沖縄・離島は除く)

CLCのホームページからもご注文いただけます [www.clc-japan.com](http://www.clc-japan.com)



# セミナー案内



※詳細は、同封の開催要綱やCLCのホームページをご覧ください。

## Seminar Guide

### パーソンセンタードケアワークショップ

その人自身を中心とした  
認知症ケアを学びましょう

そんなあなたは、ぜひご参加ください

- 認知症の人にどう接していいかわからない
- 「パーソンセンタードケア」を学んだことはあるけれど心に落ちていない
- 自分の施設のケアしか知らないで、他の施設ではどう対応しているのかわからない
- ケアの仕事や人間関係にちょっと疲れている
- 「パーソンセンタードケア」がどんなものかわかりたい
- ケアの仕事へのモチベーションを取り戻したい
- 現場で役立つ実践を学びたい
- もっと介護業界の人と交流したい
- 家族が認知症になって困っている
- 自分のケアに自信がもてない

2018年 時間：12:30～16:30 定員：各会場 60人

第39回 名古屋会場 終了しました  
第40回 仙台会場 終了しました  
第41回 大阪会場 9/29 土  
第42回 東京会場 11/18 日

参加費：CLC会員・ブライコラージュ読者 5,500円 / 一般 7,500円 (テキスト代)

認知症ケア専門士単位：3単位 (どなたでもご参加いただけます)

全88ページ！  
4コママンガやイラスト入りで  
わかりやすいと大好評！

持ち歩きやすいサイズで復習にもピッタリの  
テキストがついてきます。

**参加者の声**

- 実践に役立つことがたくさんあった。(40代女性・教員)
- 新たな気づきがあったり、忘れていたことを思い出したり、とても参考になった。
- ディスカッションも多く、参加できて楽しかったです。(30代女性ケアマネジャー)
- 素直な気分になった。勉強したというより、これまで福祉の仕事に携わってきたことに、対して誇りをもてた。励ましていただき、勇気、希望を与えてもらったような気分だった。(30代男性・老人保健施設職員)
- 楽しく「あーおそうなんだあ」と心打たれる意見や経験を聞かせていただき勉強になりました。(50代女性・デイサービス職員)
- 役立つ宝石がたくさんつまっていました。(40代男性・家族)

講師：寺田 真理子  
長崎県出身。幼少時より南米諸国に滞在。  
東京大学法學部卒業。  
「認知症の介護のために知っておきたい大切なこと～パーソンセンタードケア入門」をはじめパーソンセンタードケア関連の著書、訳書を多数出版（詳しくは裏面を参照）。全国各地の介護施設や病院の研修、介護・福祉関連団体主催のセミナーでの講演で多数の実績があり、心理カウンセラーとしての知識を生かした内容は「とてもわかりやすい」「現場ですぐに生かせる」と評判。  
日本メンタルヘルス協会公認心理カウンセラー。

ワークショップの内容

1. できること目を向けよう
2. 「モ」扱っていませんか？
3. 「自分だったら一体どんな気持ちがある？どうしてほしい？」
4. パーソンセンタードケアって??
5. その人って、どんな人？
6. その人にとっての現実の中に入っていく
7. そんなとき、どんなケアをしたらいい？
8. もっとコミュニケーションをどう
9. ここまでのまとめ
10. 明日からすぐできるパーソンセンタードケア
11. 「それは言っても…」という人のために
12. あなた自身のパーソンセンタードケア

グループなどのワークは和やかな雰囲気でも構わないときも講師がしっかりフォローするので安心！

エイエーター！  
…ではなく、心豊かに暮らしたワークです  
落ち込みや怒りの対処法もたくさん学べます

「どんなことをするの？」  
という疑問へのお答えや  
お申し込み方法は  
裏面をご覧ください

参加者全員にプレゼント！(どれか1つ)  
パーソンセンタードケア複製版1冊

講演とグループワークが  
交互にあるので  
学んだことをその場ですぐ自分に  
落とし込むことができます

参加したいけど日程が合わない！という方へ… 講師依頼を受け付けています。詳細は下記CLCまでお問い合わせください

お問い合わせ・お申込み先  
特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター (CLC)  
宮城県仙台市青葉区本町16-30 シンエイ木町ビル1階  
TEL:022-727-8730 FAX:022-727-8737 http://www.cle-japan.com

ワークショップをよりいっそう  
楽しんでいただくために  
カラフルな服装での  
ご参加を歓迎します！

● 主催  
全国コミュニティライフサポートセンター  
パーソンセンタードケア研究会 / **Bricolage**

### 終了セミナー

- 第39回  
パーソンセンタードケアワークショップ  
in 名古屋  
2018年6月30日(土)  
(名古屋市熱田区)
- 第40回  
パーソンセンタードケアワークショップ  
in 仙台  
2018年7月22日(日)  
(仙台市青葉区)

～多数のご参加をいただき、  
ありがとうございました～

### 今後のセミナー予定

### パーソンセンタードケアワークショップ

- 【大阪会場】 2018年9月29日(土)  
新大阪丸ビル 新館 909号室(大阪市東淀川区)
- 【東京会場】 2018年11月18日(日)  
タイム24ビル(東京都江東区)
- 【各会場共通】 講師 寺田 真理子  
時間 12:30～16:30  
定員 60人  
参加費 CLC会員・ブライコラージュ読者 5,500円 / 一般 7,500円  
※テキスト代込み  
問い合わせ先 CLC(TEL:022-727-8730)

## 酒井 保と学ぶ 生活支援体制整備事業

～つながり、支え合いを  
地域づくりにどう生かすのか～

**開催日:** 2018年10月6日(土)～7日(日)

**会場:** CLC京都事務所(京都市南区)

**定員:** 15人

**参加費:** 事前振込: 10,000円  
(CLC会員: 9,000円、  
当日支払: 11,000円)

**講師:** 酒井 保  
(ご近所福祉クリエイション 主宰  
ご近所福祉クリエイター)

**問い合わせ先**

CLC京都事務所 (TEL: 075-644-5582)

## 第2層「生活支援コーディネーター・ 協議体」による 「つながり」を基盤にした 「支え合いの地域づくり」の進め方

**【愛知会場】** 2018年9月13日(木)  
尾張一宮駅前ビル(愛知県一宮市)

**【大阪会場】** 2018年9月28日(金)  
大阪府立男女共同参画・青少年センター  
(ドーンセンター)(大阪市中央区)

**【東京会場】** 2018年11月19日(月)  
タイム24ビル(東京都江東区)

**【各会場共通】**

**講師** 酒井 保 (ご近所福祉クリエイション 主宰  
ご近所福祉クリエイター)  
池田 昌弘 (全国コミュニティライフサポートセンター  
理事長)

**時間** 10:30～16:00

**定員** 70人

**参加費** 事前振込: 7,500円  
(CLC会員: 6,500円、当日支払: 8,500円)

**問い合わせ先** CLC (TEL: 022-727-8730)

# セミナー案内

※詳細は、同封の開催要綱やCLCのホームページをご覧ください。



Seminar Guide

## 生活支援コーディネーターによる 地域の入り方、地域支え合いの見つけ方

**【札幌会場】** 2018年10月16日(火)  
北海道建設会館(札幌市中央区)

**【福岡会場】** 2018年10月26日(金)  
天神クリスタルビル(福岡市中央区)

**【名古屋会場】** 2018年11月3日(土)  
フジコミュニティセンター(名古屋市中村区)

**【大阪会場】** 2018年11月4日(日)  
四ツ橋・サンワールドビル(大阪市西区)

**【東京会場】** 2018年12月16日(日)  
タイム24ビル(東京都江東区)

**【各会場共通】**

**講師** 池田 昌弘  
(全国コミュニティライフサポートセンター 理事長)  
木村 利浩  
(全国コミュニティライフサポートセンター  
地域支え合い推進プロジェクト 開発主査)

**時間** 10:30～16:00

**定員** 60人

**参加費** 事前振込: 7,500円  
(CLC会員: 6,500円、  
当日支払: 8,500円)

**問い合わせ先** CLC (TEL: 022-727-8730)

## 老いの準備（自助）と 支え合い（互助）

～生活支援体制整備事業の  
めざすもの～

**【大阪会場】** 2018年11月16日(金)  
カーニープレイス本町ビル(大阪市西区)

**【東京会場】** 2018年11月17日(土)  
タイム24ビル(東京都江東区)

### 【各会場共通】

**講師** 石黒 秀喜 (老い支度クリエーション 主宰  
老い支度クリエーター)  
酒井 保 (ご近所福祉クリエーション 主宰  
ご近所福祉クリエーター)

**時間** 10:30～16:00

**定員** 50人

**参加費** 事前振込：7,500円  
(CLC会員：6,500円、当日支払：8,500円)

**問い合わせ先** CLC (TEL：022-727-8730)

## 第6回町内・集落福祉 全国サミット in 熊本・山都町

「集落」から「集楽」へ  
～みんなでかたろい、支え合いの地域づくり～

**開催日**：2018年10月27日(土)・28日(日)  
(2日間)

**会場**：山都町役場蘇陽支所(熊本県山都町)

**定員**：各日300人

**参加費**：1日目／3,500円

2日目／2,000円

2日間／5,500円

2日のみ参加者資料代／1,000円

交流会参加費／3,500円

### 問い合わせ先

CLC (TEL：022-727-8730)

# セミナー案内

※詳細は、同封の開催要綱やCLCのホームページをご覧ください。



## Seminar Guide

## 第18回 気づきを築くユニットケア 全国実践研究フォーラム

**開催日**：2019年3月9日(土)・10日(日)(2日間)

**会場**：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス  
(兵庫県西宮市)

**定員**：800人

**参加費**：一般参加費：15,000円

発表者参加費：13,000円

(1発表につきお二人まで適用)

### 問い合わせ先

特養・老健・医療施設ユニットケア研究会  
(TEL：022-727-8732)

## 地域力こそ防災力！

**【大阪会場】** 2018年12月1日(土)  
カーニープレイス本町ビル(大阪市西区)

**【福岡会場】** 2018年12月2日(日)  
天神クリスタルビル(福岡市中央区)

### 【各会場共通】

**講師** 高橋 誠一 (東北福祉大学  
総合マネジメント学部 教授)

池田 昌弘 (全国コミュニティライフサポートセンター  
理事長)

**時間** 10:30～16:00

**定員** 60人

**参加費** 事前振込：7,500円

(CLC会員：6,500円、当日支払：8,500円)

**問い合わせ先** CLC (TEL：022-727-8730)

# CLC 事務局の動き

2018年3月

1日(木)	講師派遣(福島県会津若松市/主催:福島県会津地方振興局)	総	企
	講師派遣(埼玉県長瀨町/主催:長瀨町社会福祉協議会)	総	企
	青葉区自立支援協議会(サポネットあおば)連絡会	仙	
	宮城県アディクション問題研究会 例会	仙	
2日(金)	講師派遣(静岡県三島市/主催:静岡県社会福祉協議会)	総	企
	講師派遣(兵庫県加東市/主催:加東市社会福祉協議会)	総	企
3日(土)	講師派遣(兵庫県多可町/主催:多可町社会福祉協議会)	総	企
	講師派遣(兵庫県丹波市/主催:丹波市社会福祉協議会・丹波市西部地域包括支援センター)	総	企
4日(日)	講師派遣(大阪府箕面市/主催:箕面市社会福祉協議会)	総	企
5日(月)	講師派遣(東京都中央区/主催:三菱UFJリサーチ&コンサルティング)	総	企
	講師派遣(宮城県白石市/主催:白石市社会福祉協議会)	総	企
6日(火)	青葉区自立支援協議会(サポネットあおば)地域課題ワーキンググループ	仙	
	株式会社日本総研第4回研究会(東京都品川区)	総	
	第4回みやぎ高齢者元気プラン推進委員会(仙台市青葉区)	総	
	講師派遣(福島県会津坂下町/主催:会津坂下町社会福祉協議会)	総	企
	講師派遣(福島県川俣町/主催:川俣町)	総	企
7日(水)	猪苗代町の宝物(地域支え合い活動)発表会(主催:猪苗代町/福島県)	年	総 企
	震災復興定例支援会議(仙台市青葉区/主催:宮城県社会福祉協議会)	東	
8日(木)	講師派遣(宮城県栗原市/主催:栗原市栗駒・鶯沢地域包括支援センター)	総	企
8日(木)~9日(金)	平成29年度宮城県生活支援コーディネーター養成研修 研修3:生活支援コーディネーター基礎・実践研修(仙台市青葉区)【平成29年度宮城県生活支援コーディネーター養成研修等実施事業業務】	委	被
9日(金)	平成29年度宮城県被災者支援従事者研修 市町別研修(宮城県南三陸町)【平成29年度宮城県被災者支援従事者研修事業】	委	被
	講師派遣(神戸市中央区/主催:兵庫県社会福祉協議会)	総	企
10日(土)	講師派遣(島根県松江市/主催:法吉公民館)	総	企
	講師・アドバイザー派遣(福島県福島市/主催:福島市 平成29年度「福島市生活支援推進事業」研修事業)	年	総 企
10日(土)~11日(日)	第17回気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム(兵庫県西宮市)	団	
11日(日)	講師派遣(島根県松江市/主催:松江市社会福祉協議会)	総	企
	社会福祉法人の地域貢献について考えるセミナー(兵庫県西宮市)	団	
12日(月)	講師派遣(鳥取県伯耆町/主催:伯耆町)	総	企
	講師派遣(福島県福島市/主催:福島市 平成29年度「福島市生活支援推進事業」研修事業)	委	総 企
13日(火)	厚生労働省四国厚生支局総合事業・生活支援体制整備事業の推進に関するブロック会議(香川県高松市)	総	企
	財団法人日本総研第4回委員会(東京都中央区)	総	
14日(水)	赤い羽根福祉基金~自然な支え合いの発見と意識化をとおして住民主体の地域づくりを広げる事業「私たちにもできる 地域の支え合い実践塾 お宝発表会」(宮城県多賀城市)	補	総 団
15日(木)	講師派遣(静岡県富士市/主催:富士市社会福祉協議会)	総	企
	宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員会(仙台市青葉区)	委	被 企
16日(金)	平成29年度宮城県被災者支援従事者研修 市町別研修(宮城県気仙沼市)【平成29年度宮城県被災者支援従事者研修事業】	委	被
17日(土)	講師派遣(岡山県鏡野町/主催:鏡野町地域包括支援センター)	総	企
18日(日)	講師派遣(島根県浜田市/主催:浜田市)	総	企
19日(月)	講師派遣(広島県広島市/主催:広島市域小規模多機能施設連絡会)	総	企
20日(火)	グループ長会議	総	
	定期刊行物『月刊地域支え合い情報』第66号の発行	東	企
21日(水)	講師派遣(岡山県倉敷市/主催:倉敷市社会福祉協議会)	総	企
22日(木)	講師派遣(広島県三次市/主催:三次地区医師会)	総	企

## CLC 事務局の動き

22日(木)	第4回生活支援サービス体制づくりセミナー(名古屋市中区/日本福祉大学福祉政策評価センターとの共催) 宮城県サポートセンター支援事務所会議(仙台市青葉区)	総 企 被
	赤い羽根福祉基金～自然な支え合いの発見と意識化をととして住民主体の地域づくりを広げる事業 振り返り(宮城県多賀城市)	補 総
23日(金)	講師派遣(大分県別府市/主催:別府市社会福祉協議会)	総 企
	講師・アドバイザー派遣(福島県昭和村/主催:昭和村 平成29年度「昭和村生活支援体制整備事業支援業務」)	年 総 企
24日(土)	講師派遣(東京都台東区/主催:自立支援センターふるさとの会)	総 企
	講師派遣(兵庫県三木市/主催:三木市社会福祉協議会)	総 企
	講師派遣(兵庫県多可町/主催:多可町社会福祉協議会)	総 企
25日(日)	講師派遣(高知県津野町/主催:津野町社会福祉協議会)	総 企
	講師派遣(広島県福山市/主催:福山市学区社会福祉協議会)	総 企
	講師派遣(広島県福山市/主催:福山市社会福祉協議会)	総 企
26日(月)	講師・アドバイザー派遣(高知県高知市/主催:高知県 平成29年度生活支援体制整備事業委託事業)	年 総 企
	講師派遣(山口県美祢市/主催:美祢市社会福祉協議会)	総 企
	自立準備ホーム連絡協議会(仙台市青葉区/主催:法務省仙台保護観察所)	仙
27日(火)	講師派遣(福岡県みやこ町/主催:みやこ町社会福祉協議会、みやこ町地域包括支援センター)	総 企
	地域福祉マネジメント研究会 拡大セミナー(仙台市青葉区/主催:宮城県サポートセンター支援事務所)	被
28日(水)	日本郵便株式会社「東日本大震災及び平成28年度熊本地震の被災者救助・予防(復興)事業」～熊本地震と東日本大震災の被災地における生活支援コーディネーター等の視察・交流研修報告会 (熊本県益城町)	総 企
30日(金)	赤い羽根福祉基金～自然な支え合いの発見と意識化をととして住民主体の地域づくりを広げる 事業「弟子屈町お宝自慢発表会」(北海道弟子屈町)	補 総 企
	定期刊行物『MIYAGI まちづくりと地域支え合い』15号の発行	委 企
31日(土)	開成仮設住宅の供用閉鎖にともない、石巻・開成のより処あがらいん 閉所	石

## 2018年4月

1日(日)	石巻・蛇田のより処 まざらいん 石巻市より事業受託	石
3日(火)	生活困窮者自立支援全国ネットワーク理事会(東京都新宿区)	団
12日(木)	宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員会(仙台市青葉区)	委 被 企
13日(金)	棚卸し	企
	講師・アドバイザー派遣(福島県会津坂下町/主催:会津坂下町社会福祉協議会)	年 調 総
14日(土)	認知症のパーソンセンタードケアと介護者のメンタルヘルズ講座 in 東京(東京都中央区)	団
16日(月)	国見・千代田のより処ひなたぼっこ 運営推進委員会	仙
18日(水)	講師派遣(宮城県大崎市/主催:大崎市)	総 企
19日(木)	青葉区自立支援協議会(サポネットあおば)連絡会	仙
20日(金)	宮城県サポートセンター支援事務所会議(仙台市青葉区)	被
21日(土)	ことしもまた、新たなえにしを結ぶ会'18!!(東京都千代田区)	団
	定期刊行物『月刊地域支え合い情報』67号の発行	東 企
21日(土)～22日(日)	バリデーション・ワーカーコース(大阪市淀川区)	団
	CLC 京都研究センター研究会(京都市南区)	総 企
24日(火)	講師・アドバイザー派遣(福島県会津美里町/主催:会津美里町 会津美里町生活支援体制整備業務)	年 総 調
28日(土)	講師派遣(愛知県武豊町/主催:武豊町社会福祉協議会)	総 企
29日(日)	イオン幸せの黄色いレシート贈呈式(仙台市泉区)	仙

総 総務・管理グループ

調 調査研究・情報グループ

仙 仙台・国見地域グループ

年 年間事業契約

団 団体支援/講座・セミナーグループ

企 企画広報・書籍販売グループ

石 石巻地域グループ

被 被災地生活支援グループ

東 東北関東大震災・共同支援ネットワーク

委 委託事業

補 補助・助成事業

# 2017年度 実績報告

第18期目となった2017年度は、介護保険法改正における生活支援体制整備事業を推進するための研修やアドバイスを、長野県、福島県など10市町村より委託を受け、実施しました。

また、東日本大震災の被災者支援事業では、2016年度に引き続き、相談員に向けた研修を宮城県仙台圏域、石巻圏域、気仙沼圏域（宮城県保健福祉部受託）、岩手県沿岸市町村（岩手県保健福祉部受託）で実施したほか、2011年12月以来運営を継続している福祉仮設住宅「石巻・開成のより処あがらいん」（石巻市受託）にて自立が困難な被災者への生活支援に力を注ぎました。

熊本地震の被災者支援活動では、「熊本地域支え合いセンター支援事務所運営事業に係る人材育成事業」（熊本県社会福祉協議会受託）を実施しました。

福祉ネットワーク支援事業では、「国見・千代田のより処ひなたぼっこ」の運営、「生活困窮者自立支援ネットワーク」

の全国交流研究大会の運営などを行いました。

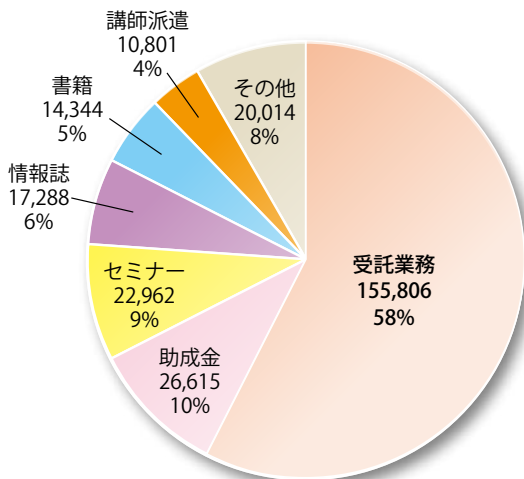
社会福祉に関する調査・研究事業では、厚生労働省老健局から補助を受け、「地域づくりにおける生活支援体制整備事業と地域づくりに関する各種事業との連携に関する調査研究事業」を実施し、『地域づくり部署と福祉部署連携のためのガイドブック』を作成。全国2,000か所に配布しました。

第18期（2017年度）の収入総額は、269,830千円。第17期（2016年度）の283,209千円と比べると、13,379千円の減収となりました。

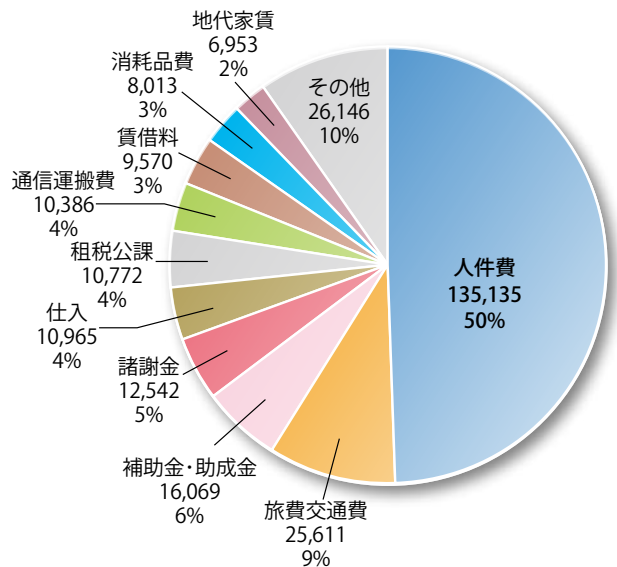
第17期と比較した事業別のおもな増減としては、受託業務が1,793千円、セミナー業務が2,420千円、講師派遣業務が954千円の増収となった一方、助成事業は6,682千円、書籍販売は4,142千円の減収となりました。

支出はほぼ横ばいだったため、最終的な収支差額は△2,332千円となりました。

第18期 収入総額 269,830千円  
(2017年度) 単位：千円



第18期 支出総額 272,162千円  
(2017年度) 単位：千円



## Missionとは…

会員としてCLCを支えていただいている皆さまに、もっとCLCをお伝えたい！そんな気持ちが出発点となった会員さま向け情報誌。CLCが目指していること、活動報告、そしてスタッフが見つけたおもしろいことをお届けします。

(年6回・奇数月発行)



(宇城絵美)

猛暑の続いた今年の夏。夏といえお祭り。京都の祇園祭に出かけてみました。お祭りを盛り上げる地元の町内会の子どもの姿を見ながら、地域の伝統を守り、つなげていく難しさやたいせつさを風土として地域で持ち続けることのすばらしさを実感しました。

